

Q10 授業のUD（ユニバーサルデザイン）とは？

A 障がいの有無にかかわらず、多様な人々が利用しやすいものづくりや仕組みづくりについて、計画段階からあらかじめ設計しておく考え方のことです。

通常の学級に在籍する全ての児童生徒が授業に参加し、「わかる・できる」ことをめざす授業デザインが必要です。小・中学校の通常の学級に、学習面又は行動面で特別な支援や配慮を要する児童生徒は約6.5%在籍。必要かつ適当な変更及び調整が求められています。

教科等の教育では、教科等の本質にせまるために、主に本時のねらいを絞ったり、授業展開の筋道を明確にしたりして、児童生徒にとって分かりやすい授業を構想してきました。

また、特別支援教育では、児童生徒の困難さに応じて、情報を絞ったり視覚情報を与えたりしてきました。

これらを「シンプル」「クリア」「ビジュアル」「シェア」という4つの視点で整理し、授業づくりに生かすことで、児童生徒にとって分かりやすい授業に変わります。

視点	教科等の教育	特別支援教育
シンプル	本時のねらいや発問を絞る	余分な刺激をなくし、必要な情報に絞る
クリア	授業展開の筋道を明確にする	活動の内容や順序など、見通しを示す
ビジュアル	言語情報に加え、視覚情報や具体物を併用する	
シェア	少人数で話し合う場面を設定し、発言機会を保障する	

Q11 UD（ユニバーサルデザイン）の視点を生かした授業づくりをするためには？

A シンプル・クリア・ビジュアル・シェアの4つの視点をもって授業づくりをしましょう。

教科等の教育では、教科等の本質にせまるために、主に本時のねらいを絞ったり、授業展開の筋道を明確にしたりして、児童生徒にとって分かりやすい授業を構想してきました。また、特別支援教育では、児童生徒の困難さに応じて、情報を絞ったり視覚情報を与えたりしてきました。これらを「シンプル」「クリア」「ビジュアル」「シェア」という4つの視点で整理し、授業づくりに生かすことで、児童生徒にとって分かりやすい授業に変わります。

● 「シンプル」とは、

本時のねらいやめあて、発問、生徒に提示する情報を絞ることで、生徒の意識や思考が焦点化され、よりスムーズに学習活動に取り組むことができるようになります。

● 「クリア」とは、

授業展開の筋道を明確にし、生徒が授業全体を見通しながら理解を深めていけるようにすることです。教師が授業を構想する際に、授業展開の筋道を明確にすることが大切です。

● 「ビジュアル」とは、

思考や言語などの情報を、絵や写真、図、動作などに変換し、視覚的に提示することです。一般的に、言語情報よりも、視覚情報の方が理解しやすいという傾向があります。

● 「シェア」とは、

意図的にペアやグループなどで話し合う場を設け、全ての生徒が発言する機会を保障することです。また、生徒の発言に対して教師が問い返しや補助発問を行ったり、意味付けをしたりしながら理解を促すことです。生徒にとって自他の考えを伝え合いながら学習を展開することは、学習内容を理解する上で重要な役割を担います。

この4つの視点を意識しながら授業を構想していきましょう。

すべての生徒が「わかる・できる」授業をめざして、工夫することが大切です。